

「つながる太田川、広がる学び 安芸太田町かわまちづくり」 (広島県安芸太田町)

対象河川：一級河川 太田川水系太田川・滝山川【国管理河川】

市町村名：広島県山県郡安芸太田町

推進主体：安芸太田町



1. 概要

安芸太田町では、温井ダムでのインフラツーリズムや湖面利用の推進に取り組んでおり、観光放流やダム見学ツアー、湖面でのウェイクサーフィン、SUP、カヤックなどのウォーターアクティビティを通じて、温井ダムは町の観光拠点としてにぎわいを創出しています。また、町内各地には峡谷や棚田などの豊かな自然環境やそれを活かした観光資源が点在しており、様々な観光・学習プログラムが実施されています。温井地区や、町の東の玄関口となる加計SIC付近の津浪地区では、安全に水辺を利用できる環境整備に取り組み、拠点性の強化を図ります。また、それらの地区に加えて、文化施設のある加計や町の西の玄関口である戸河内等の各地区が連携した一体的な情報発信等を進めることで、町内の周遊性と魅力を高めるとともに、滞在性の向上につなげ、さらなる地域振興を図ります。

国土交通省では、この取組に対し、必要となる河川管理施設を整備するほか、河川空間において営利活動を実施する場合には、河川敷地占用許可準則第22に基づく、都市・地域再生等利用区域の指定等の支援を実施していきます。

2. ハード施策の内容

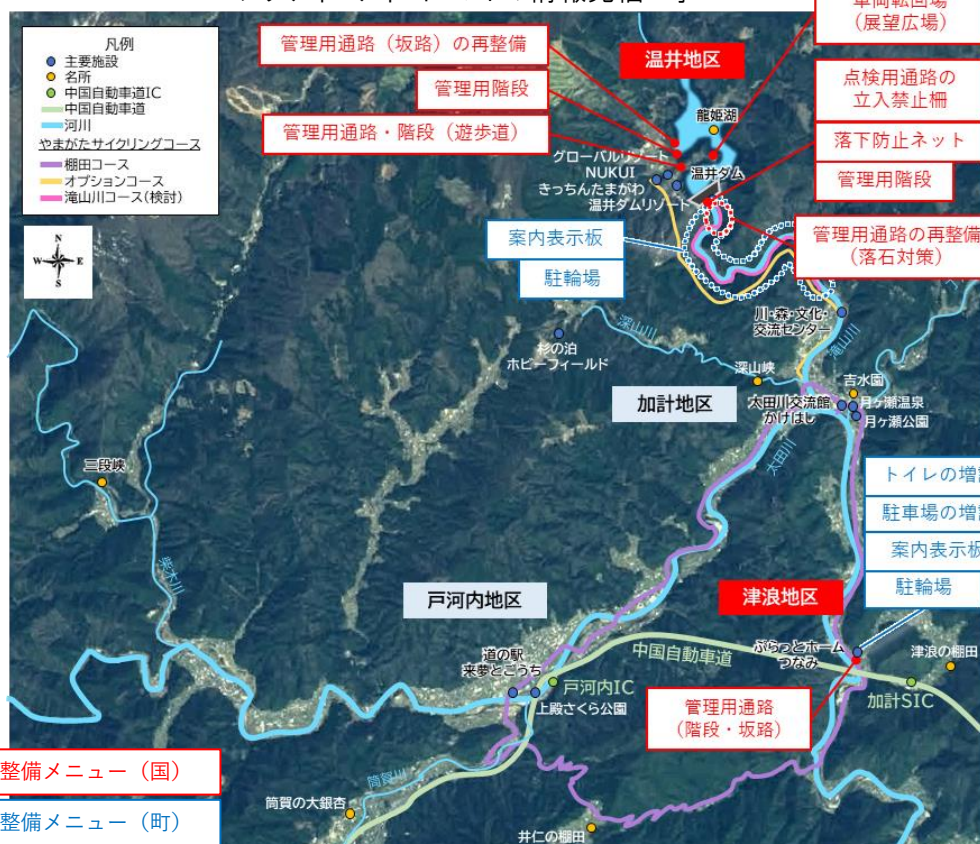
国土交通省：管理用通路、管理用階段 等

安芸太田町：駐輪場、案内表示板、トイレ 等

3. ソフト施策の内容

国土交通省：都市・地域再生等利用区域の指定 等

安芸太田町：サイクリングの利活用推進、パンフレット作成、
アクティビティ・イベントの情報発信 等



温井地区 整備イメージ



津浪地区 整備イメージ

※今後、工事实施のための詳細な設計等を実施することにより、実施内容を変更する場合があります。

1. 市町村等の概要	
① 都道府県名	広島県
② 市町村名	安芸太田町
③ 人口	5,143 人（令和 8 年 5 月時点）
④ 面積	341.89km ²
2. 河川の概要	
① これまで実施済みの関連施策 ・とごうちかわまちづくり 実施場所：太田川水系太田川 上殿地区 施策目的：河川利用の推進 事業期間：H21～H23 （登録年度：H21） 事業主体：安芸太田町 整備内容：護岸、坂路、階段、河川管理用通路 関連 URL： https://www.mlit.go.jp/river/kankyo/main/kankyou/machizukuri/map/chugoku/togochi.html	
② 市民や民間事業者による河川利活用状況 ・太田川流域振興交流会議が、広島市内の住民や小学生を対象に、安芸太田町（太田川上流）の水辺で学ぶ活動を実施している。 ・津浪地区では、津浪振興会がアマゴのつかみ取りイベントを例年 7～8 月に開催している。 ・温井ダム下流の滝山川は、ホタル観賞や釣り等に利用されている。 ・三段峡では、民間事業者が SUP 体験（4～11 月）、シャワークライミング（7～9 月）等のウォーターアクティビティを実施している。 ・津浪地区～温井ダム周辺や太田川上流域では、広島市内の団体「RiverDo！基町川辺コンソーシアム」が日帰りフットパスツアー「環・太田川フットパス」を実施している。 ・温井ダムでは、龍姫湖まつり実行委員会が「龍姫湖まつり」を例年 10 月に開催している。 また、令和 4 年度から、龍姫湖利用協議会が龍姫湖や温井ダム堤体の利活用についての社会実験を実施するとともに、民間事業者がウォーターアクティビティ（ウェイクサーフィン、SUP、カヤック等）の体験イベントや放流・ダム見学ツアー等を実施している。	
    <アマゴのつかみ取り> <フットパスツアー> <SUP 体験> <ダム放流>	

3. かわまちづくりの方針

・かわまちづくりテーマ

「つながる太田川、広がる学び 安芸太田町かわまちづくり」

・目標の3つの柱

1. インフラツーリズムやウォーターアクティビティを核とした新たな観光拠点づくりを推進する。
2. 拠点・地区間の連携、各種イベントやアクティビティとの連携により町内の周遊性、滞在性の向上を図る。
3. 温井ダム・太田川を水についての学びの場として活用し、水源地域としての誇りを醸成するとともに、上流域と下流域の交流を図る。

① 地域における課題、必要性

○温井ダム・太田川流域でのサイクルツーリズムの推進

- ・西中国山地の美しい景観を自転車愛好家楽しんでもらい、交流と地域活性化を促進することを目的として「やまがたサイクルツーリズム推進協議会」が平成28年に設置され、取組の一環として「やまがたサイクリングマップ」が作成されている。同マップでは、戸河内～津浪～加計～温井を結ぶルートが「棚田コース」に位置付けられており、各地区のサイクリングにおける拠点性の向上が求められている。
- ・また、広島県は、しまなみ海道に続く新たな観光資源として、山間部を活かしたサイクルツーリズムの展開を進めている。安芸太田町においては、マウンテンバイク拠点づくりを目指して、温井ダムリゾートを含めたコースや、SUP等の自然体験との連携について検討を進めており、受入環境の整備が急務となっている。



○太田川流域の一体整備と地区間連携による周遊性の向上

- ・安芸太田町は、国特別名勝の三段峡や県内最高峰の恐羅漢山、棚田百選に選ばれた仁井の棚田など豊かな自然環境に恵まれた地域である。また、太田川支流の滝山川中流部に平成13年に完成した「温井ダム」は、アーチ式コンクリートダムとしては黒部ダムに次ぐ国内2位の高さを誇り、多くの観光客が訪れる町の観光資源となっている。
- ・しかし、各拠点が連携した情報発信や事業展開などが十分に図られてきたとはいえ、滞在時間を延ばす仕掛けが少ないことが課題となっている。
- ・そのため、温井地区と津浪地区の整備による新たな観光拠点づくり（ハード）と地区間連携（ソフト）により、流域内の周遊性と滞在性の向上を図る。
- ・また、これにより関係・交流人口を増加させ、安芸太田町の重点方針である「人口減少の抑制（社会増）」を目指す。

○学習の場としての太田川中上流部の活用

- ・温井ダムや津浪地区、川・森・文化・交流センター、三段峡等では、広島市内など太田川流域の小中学生の教育旅行（カヤック体験、ラフトピクニック体験等）を受け入れている。
- ・令和7年度には、町内小中学校全校が龍姫湖でSUPやカヤックを体験し、あわせて地域学習を行った。
- ・また、町内小学校教員のメンタルヘルス研修の場としても利用されるなど、教育関連のニーズが高く、利用者の利便性や安全性に資する整備や流域内でのより効果的な連携が求められている。



- ・津浪地区の「ぷらっとホームつなみ」に隣接する太田川は、アマゴのつかみ取りや川遊びなど、子供達の自然体験活動の場として活用されている。一方で、河岸には樹木が繁茂し、水辺にアクセスできる場所まで交通量の多い国道脇を歩いて移動する必要があり、安全面に課題がある。
- ・また、水辺の利用に際しては、駐車場やトイレ等を備えた場所は町内でも限られており、水辺への安全なアクセスルートの確保や施設の利便性向上により、当該地区の水辺は更なる学びの場としての利活用促進が期待できる。



<温井地区>

- ・温井ダムは、令和6年に『インフラツーリズム魅力倍増プロジェクト』のモデル地区に選定された。これを受け、安芸太田町はダム見学ツアーやウォーターアクティビティを核とした新たな観光拠点づくりを推進している。
- ・また、令和7年3月に都市・地域再生等利用区域に指定され、湖面のオープン化がスタートした。
- ・龍姫湖は、ウェイクサーフィンの利用者から国内外でトップクラスの評価を受けており、令和7年にはウェイクサーフィンのアジア大会「Asian Championship」が開催されたことで、龍姫湖の認知度向上が期待されている。安芸太田町では、公式戦や国際大会誘致を目標に、受入れ環境整備や情報発信等の取り組みを進めている。
- ・一方で、水辺に近づける場所が限られており、施設間を結ぶ歩道も未整備であるほか、ダムや放流を安全に見学できる環境が整っていないなど、既存施設を活用しきれておらず、地域団体や事業者から、観光拠点としての魅力向上に資する整備が求められている。



<加計地区>

- ・JR 加計駅の跡地に「太田川交流館かけはし」や大型駐車場が整備されるとともに、温泉施設や飲食店等の施設が集約されており、ドライブやサイクリングの立ち寄り拠点としての集客力がある。
- ・また、ダム建設時の宿舎を活用した「川・森・文化・交流センター」は太田川・温井ダムの役割や加計地方の文化を紹介する施設として住民や観光客の学び・憩いの場となっている。
- ・このような加計地区の拠点性を活用・強化することで、流域内の周遊性の向上が期待できる。



<津浪地区>

- ・加計 SIC 近くの、JR 可部線の廃駅を活用した休憩施設「ぷらっとホームつなみ」は、丸山登山や津浪振興会が保全するカタクリ等の希少植物の鑑賞、棚田見学に訪れる人々の観光拠点であるとともに、地元野菜の直売や太田川を活用したイベントも行われる地域の交流拠点となっている。
- ・また、本施設に併設されたレストランは、飲食店が限られるこの地域において重要な地域資源となっているほか、河川沿いには津浪振興会によりドッグランが整備されている。
- ・加計 SIC から温井ダムへ向かう国道沿いにあり、太田川にも隣接する本施設は、河川の利活用ニーズが高く、温井ダムへの観光動線の入口としても重要な拠点であるが、河岸には樹木が繁茂し、水辺に近づきにくい状況である。
- ・このため、地域住民や事業者から、現在事業が進められている加計 SIC のフルインターチェンジ化にあわせ、「町の東の玄関口」として、地域の魅力を発信するための水辺の整備及び活用が求められている。



<戸河内地区>

- ・中国自動車道戸河内 IC 近くの道の駅「来夢とごうち」は、年間約 30 万人が訪れる「町の玄関口」として、安芸太田町の観光振興の核に位置付けられている。本施設に隣接する太田川では、過年度に水辺整備が完了している（とごうちかわまちづくり）。
- ・現在、安芸太田町は道の駅の利便性や集客力を高める再整備を進めており（R9 年度開業予定）、整備後は更なる来訪者の増加が期待される。



② 市町村の地域計画や沿川地域のまちづくりの中での河川の位置づけ

- ・第三次安芸太田町長期総合計画（R7 策定）
掲載 URL : <https://www.akioita.jp/uploaded/attachment/8315.pdf>
該当箇所 : 3 ページ、2 行目
「安芸太田町のめざす将来像を次のとおり定めます。

太田川とともに、暮らし、学び、未来に向けて一人一人が活躍するまち
本町の強みでもあり、町名の由来でもある太田川を中心とした森林や田園など四季折々の美しい自然環境を守り、その自然を活かした農林水産業や、自然を体験・体感する観光業などの産業が栄え、デジタルの力も使いながら、自然の中で学び、暮らし続けることを魅力とするまちをめざします。」

該当箇所 : 7 ページ、9 行目

「太田川の清流復活を目指した取組を開始し、河川氾濫等の災害に強いまちづくりにも配慮しつつ、本町の魅力向上と住民の本町への誇りを育みます。」

該当箇所 : 15 ページ、表内

「河川・里山環境の保全」「インフラツーリズム・湖面利用の推進」

③ 地域活性化や賑わいあるまちづくりに対する市町村や民間事業者の考え方 (地域計画)

- ・人口減少の抑制（社会増をめざす）
持続可能な人口を維持するため、社会増減に着目し、本町の強みを伸ばす（魅力の向上）とともに弱みを改善（生活利便性の向上）することで、移住者の増加と転出者の抑制による社会増を目指します。（第三次安芸太田町長期総合計画より抜粋）
- ・新生「道の駅 来夢とごうち」を核とした観光町づくりの推進
「道の駅 来夢とごうち」再整備事業に併せて、体験型観光等の内容を充実させ、観光客の増加をめざすとともに、産直市の活性化や地域特産品の生産・開発支援により産業の振興と雇用の促進を図ります。（第三次安芸太田町長期総合計画より抜粋）
- ・地域資源を活かした産業の担い手育成
本町の約 9 割を占める森林や、農地を活かした第一次産業の担い手について、積極的に支援を行い、育成に努めます。また、森林セラピーやウォーターアクティビティ、サイクリング等の新たな観光の担い手とガイド等の育成に取り組めます。（第三次安芸太田町長期総合計画より抜粋）
- ・加計 SIC のフルインター化事業
加計 SIC のフルインター化と合わせ、安芸太田町でもアクセス道路を整備し、町内観光施設を巡る新たな周遊ルートを確保し、更なる観光振興を目指している。

(事業者)

・(一社) 地域商社あきおおた

道の駅「来夢とごうち」の観光案内所・情報提供施設を運営するとともに、地域 DMO として、町内事業者等で構成される部会を通して地域資源を掘り起こし、地域資源を消費者へとつなぐ、町の観光地域づくりの中心的役割を担う。

・(一社) NUKUI OUTDOOR FIELD

湖面やダム周辺環境といった魅力的な地域資源、地域やフィールドで活動する人材を生かし、エリア一帯の活性化に取り組んでいる。温井ダム湖畔の宿泊施設「グローバルリゾート NUKUI」内に龍姫湖で楽しめるウォーターアクティビティや温井ダム見学ツアーの受付のほか、地域情報、観光案内、周辺の魅力発信などを行う総合観光拠点「NUKUI OUTDOOR FIELD ツーリストセンター」を設置している。

(協議会等での意見)

・上流域の役割や価値を伝えるプログラム(社会見学・旅行)を企画し、環境保全や教育、地域が誇りを持てる町づくりにつなげたい。(一社) 地域商社あきおおた)

・子どもたちの基礎知識の形成につながり、未来にもつながるため、温井ダムを学校教育の中で活用してほしい。(一社) NUKUI OUTDOOR FIELD)

・遊びを通じて太田川を知るということが「学び」である。蛇口をひねって出てくる水ではなく、川の体験を通じて水のつながりを学んでほしい。(津浪振興会)

・限られた予算で、多くの人に楽しんでもらうためには拠点間や地区間が連携した取り組みが重要である。(温井ネットワーク協議会)

④ 地域活性化や賑わいあるまちづくりに資する定量的目標

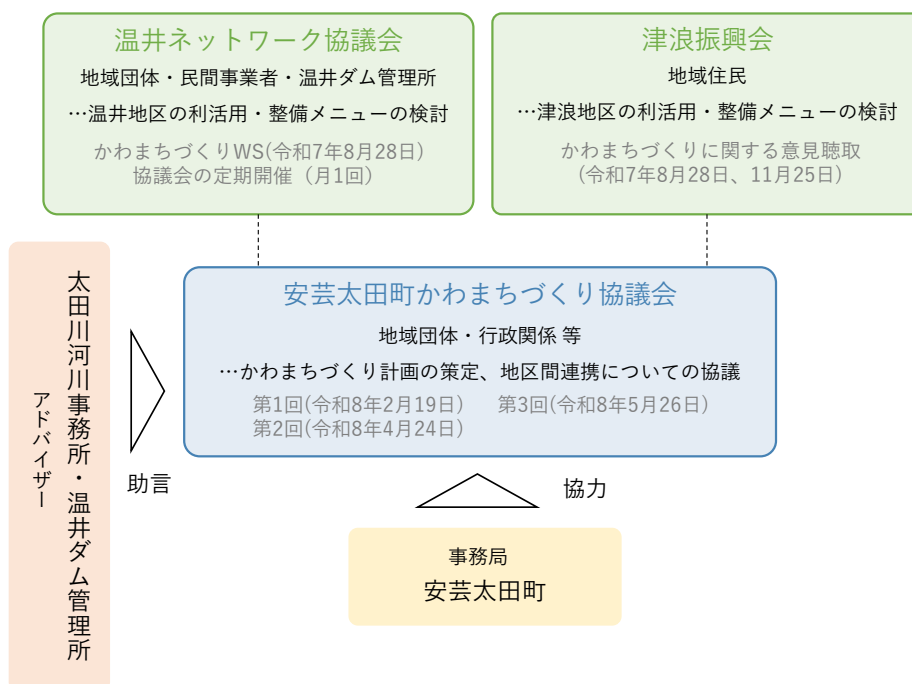
まちづくりに資する定量的目標

指標	地区	従前値	目標値	設定の考え方・測定方法等
施設利用者数	温井ダム	3 万人 (R3~R7 年の平均)	6 万人 (R17 年)	・県の観光計画の目標値及び地域の直近 5 か年の現状値を参考とした。 ・目視によるカウント及び、インフラツーリズムや湖面利用の参加者数を集計。
	ぷらっとホームつなみ	3 万人 (R2~R6 年の平均)	6 万人 (R17 年)	・県の観光計画の目標値及び地域の直近 5 か年の現状値を参考とした。 ・レジ通過客数を測定。

4. 推進体制・取組内容

① 協議会、運営組織等の体制（図）

- ・かわまちづくりにより太田川の更なる魅力向上を図り、地域活性化につなげることを目的に「安芸太田町かわまちづくり協議会」を設立。
- ・温井ネットワーク協議会、地縁団体温井徳行会、（一社）NUKUI OUTDOOR FIELD、津浪振興会、ぶらっとホームつなみ、太田川上流漁業協同組合などの温井地区、津浪地区の代表に加え、安芸太田町 PTA 連合会、安芸太田町商工会、（一社）地域商社あきおおた、安芸太田町（道の駅推進チーム）の代表を構成員とし、整備予定箇所である温井地区、津浪地区だけでなく、加計地区、戸河内地区も含めた一体整備や地区間連携について協議を行っている。



温井ネットワーク協議会	会長	
地縁団体温井徳行会	会長	
(一社) NUKUI OUTDOOR FIELD	代表理事	
津浪振興会	会長	
ぶらっとホームつなみ	店長	
太田川上流漁業協同組合	代表理事組合長	
安芸太田町PTA連合会	会長	
安芸太田町商工会	事務局長	
(一社) 地域商社あきおおた	事業本部長	副会長
安芸太田町	道の駅推進チーム 担当課長	会長



<協議会開催状況>

※太田川河川事務所、温井ダム管理所はアドバイザーとして参加

② 地域活性化や賑わいあるまちづくりに資する多様な関係者との連携・取組内容

- 令和6年に温井地区が『インフラツーリズム魅力倍増プロジェクト』に中国地方で初めて選定されたことを受け、安芸太田町では温井ダムの特徴を生かし、地域の民間事業者や活動団体等と連携した持続可能な体制づくりを行い、温井ダム見学ツアーやウォーターアクティビティを核とした新たな観光拠点づくりを推進している。
- また、太田川流域振興交流会議や RiverDo! 基町川辺コンソーシアムなどの取り組みにより、下流域（広島市内）の住民や小学生が安芸太田町を訪れ、太田川上流部を楽しみ学ぶ活動が行われている。
- このような取り組みも踏まえ、安芸太田町では地域の事業者を交えた意見交換会やかわまちづくり協議会で、安芸太田町内の地区間連携方策や下流域などとの広域連携方策について検討を進めている。



（連携方策についての検討内容）

＜意見交換会開催状況（R8. 4. 10）＞

項目	第1回協議会	意見交換会	第2回協議会
連携テーマの設定		- 三段峡は自然の素晴らしさをテーマに、温井～加計エリアは「水を知る・学ぶ」をテーマにしてはどうか - SUP・カヤックで湖面利用しながら温井ダムを感じてもらえるのはどうか - 周遊ルートを「水」というテーマでつなぎ、立ち寄りながら学べるようにできるとよいのではないか	テーマを定めて一体的なアプローチを行うことが重要
二次交通	- 各コンテンツをつなぐ周遊バスなどの社会実験 - 二次交通の確保（町全域を楽しめる環境整備）	ウェイクサーフィンではヘリを移動手段とするような規模の富裕層も参加している。緊急用ヘリポートを活用した受入れも考えられる	
アクティビティ連携	- 太田川交流館かけはし前でSUPやカヤックのスラロームコースの増設 - 加計～津浪周辺で中上級者向けのダウンリバー - ぶらっとホームつなみを起点として温井ダムまで徒歩、自転車で行く自然満喫散策・サイクリングコースを設置（道中の加計市街地での休憩場所の確保も検討）	NUKUI OUTDOOR FIELDが実施する右岸側のダム見学ツアーと自転車イベントのタイアップ	
観光コンテンツ・教育プログラム等の造成	- 風災窯やたたら歴史、川舟の歴史等安芸太田の歴史文化をツアーに取り入れる 「川を歩く→食べる→買う→泊まる」を一連の体験に - 川魚や地域ならではの食材を存分に楽しめる食事 - 上流域の役割や価値を伝えるプログラム（社会見学・旅行）を企画し、環境保全や教育、地域が誇りを持つ町づくりにつなげる - 川を活用した地域の教育プログラムや町民向けの支援 - 企業や団体向けの誘客促進プログラムの造成及び販売 - 一般受け入れ向けのプログラムづくりと販売	- 温井ダムの水が供給される地域の学生を対象とした水を学ぶツアーの造成・PRの実施 - RiverDo!の方は、広島市内の子供たちに太田川流域について学んでもらい、上流域が下流域の発展を支えていることを伝えたいとしている - 学習・交流の拠点として、川・森・文化・交流センターの活用 - 子どもたちの基礎知識の形成につながり、未来にもつながるため、学校教育の中で活用してほしいという思いがある	- 町の行事が風物詩として町内外から注目される目玉コンテンツをつくる（加計周辺での牡蠣小屋など） - プロジェクトマップや花火大会など夜に滞在してもらう仕組みづくり - 教育旅行の一環として龍姫湖でのSUPやカヤック体験 - 広島市内から近い為、教育旅行の一環としてダム見学やSUP体験などのアクティビティ体験のスケジュールが組みやすく、誘致が狙える
団体間連携による情報発信	- 広島等から来てもらうべく宣伝 - ネット配信等による誘客 - 他地域へプログラムの紹介 - 全国的な認知度向上のため取組を国土交通省や観光庁等のプレスリリース等で広報・周知	- 津浪地区は「川を知る」入口のような位置付けが考えられないか - 安芸太田町全体の案内チラシを作成し、リニューアルされる道の駅などで情報発信を行うことがよいのではないか - 例えば水をテーマに、町が指揮をとり、商工会や地域の団体がそれぞれの役割をもって周遊冊子をつくるというようなことができないか	- 現地で情報収集する人向けに情報発信を活かすことが重要 - 津浪を中心とした距離や所要時間のわかる観光案内マップの作成 - プラットフォームつなみを情報発信拠点としてダムの情報やデジタル看板、チラシ等による情報発信の実施 - 地域が一体となった情報発信を行い、周遊ルートによる拠点間移動の促進

5. 安全な河川利用に向けた取組

河川利用者が安全に河川を利用できるよう、以下の取組を行う。

- ・親水護岸や水辺の整備にあたっては、利用者の安全面に配慮した構造とする。
- ・整備後は、危険個所の早期把握と是正のため、定期的に安芸太田町と河川管理者が合同で安全利用に向けた点検を行う。
- ・安全な河川利用に向けた防災リーフレットの作成・配布に取り組む。
- ・水難事故防止に向けた取組として、救急講習（１回以上／年）を行う。
- ・利用者が安全かつ楽しく水辺に楽しめるよう誘導ができる人材（ＲＡＣ指導者等）の確保および活用に努める。

6. 都市・地域再生等利用区域の指定に関する取組

- ・ 湖面利用の推進

地域の要望を受け、安芸太田町では地域活性化のための龍姫湖の活用を国に求め、令和４年に龍姫湖利用協議会を設立し、社会実験を通じて環境整備や利用ルールの策定などを進めた。その結果、令和７年に湖面が都市・地域再生等利用区域に指定された。

現在、Lake Ryuki Water Complex（湖面を利用する事業者団体）による SUP、カヤック、ウェイクサーフィンなどのウォーターアクティビティの本格利用が進み、令和 7 年には龍姫湖でウェイクサーフィンの大会「Asian Championship」が開催されたことで、温井ダムの国内外での認知度が向上した。また、龍姫湖での SUP、カヤックは安芸太田町の民泊体験型修学旅行のプログラムとしても活用され、山間地域の暮らしや自然、水の大切さを学ぶ場となっている。

今後は、温井ダム建設の歴史や水の恵みを湖上から伝える新たなコンテンツの造成などにより、インフラツーリズムの充実を図り、更なる利用者の増加を目指す。



・インフラツーリズムの推進

温井ダムは令和 6 年、『インフラツーリズム魅力増進プロジェクト』の中国地方初のモデル地区に選定された。これを受け、安芸太田町では地域や関係団体と連携し、コンテンツ造成の検討を進めてきた。

温井ダムは、アーチ式コンクリートダムとして黒部ダムに次ぐ高さを誇り、日本ダムアワード放流賞も受賞した迫力ある放流には多くの見学者が訪れ、町内全体への波及効果を生んでいる。こうした放流をインフラツーリズムによる水源地域の活性化につなげるため、安芸太田町は国に観光放流の実施を要望した。

その結果、流域総合水管理の観点から温井ダム水位運用高度化試行要領が見直され、令和 8 年度に観光放流が開始された。観光放流は、町内のイベントなどとも連携して日程を定め、温井ダムホームページなどで公表しており、各種メディアにも取り上げられるなど、地域のにぎわいづくりに貢献している。

また、(一社)地域商社あきおおたによる、放流見学と町内観光を組み合わせたバスツアー造成の取り組みや、インバウンド誘客を見据えた多言語音声ガイドと案内表示版の整備、日本のダム技術の集大成ともいわれる温井ダムの建設技術を多くの人々にわかりやすく伝える新たなコンテンツの検討などを進めている。

今後は、令和 9 年度に温井ダム堤体エリアのオープン化を目指して、ダム堤体エリアの見学ツアーのコンテンツの充実やガイド育成を進め、温井ダムが今よりも更に楽しく多くの学びを得られる場所となるように、関係者が連携して取り組む。



＜温井ダム観光放流＞

Figure 1 displays six 10x10 grids illustrating the distribution of 1000 random numbers across different categories (k) and sample sizes (n). The grids are arranged in a 3x2 grid, showing the distribution of 1000 random numbers across categories (k) and sample sizes (n).

The top row shows the distribution for $k=2$ (categories 1 and 2) with $n=100$. The middle row shows the distribution for $k=5$ (categories 1 to 5) with $n=100$. The bottom row shows the distribution for $k=10$ (categories 1 to 10) with $n=100$.

The columns represent different sample sizes (n) for each k. The grids show the distribution of 1000 random numbers across the categories, with the distribution becoming more uniform as n increases.

＜観光放流日程＞

7. 生物の生息・生育・繁殖の場の保全・創出に関する取組

- ・護岸整備については、温井地区・津浪地区の水理特性、背後地の地形・地質、土地利用などを十分踏まえた上で、必要最小限の設置区間とし、生物の生息・生育・繁殖環境と多様な河川景観の保全・創出を図る適切な工法とする。
- ・サツキマス（アマゴ）やアユの遡上環境の確保を図るとともに、「ぷらっとホームつなみ」での稚魚放流活動や環境学習等の実施を想定し、子どもが安全に自然環境に触れられる河川空間として整備する。

1. 河川名
① 太田川水系太田川 ② 太田川水系滝山川
2. 施設の実施範囲
① 太田川 津浪地区 ② 太田川 加計地区 ③ 滝山川 温井地区 ④ 太田川 戸河内地区
3. 施設概要
「つながる太田川、広がる学び 安芸太田町かわまちづくり」 ・安芸太田町は、町名の由来にもなった太田川の恵みを受けて暮らしが育まれた町であり「太田川とともに、暮らし、学び、未来に向けて一人一人が活躍するまち」を町の基本方針に掲げ、自然の中で学び、暮らし続けることを魅力とするまちを目指している。また、太田川水系初の多目的ダムとして建設され、流域の暮らしを支える温井ダムは、町のシンボルとなっている。安芸太田町は、太田川と山間部の豊かな自然、温井ダムに通ずる「水」をテーマとしたかわまちづくりに取り組み、地域の活性化を図るとともに、地域が誇りを持てるまちづくりを目指す。 ・「水を知る・学ぶ」「自然を満喫する」を連携テーマとし、温井・津浪・加計・戸河内の各地区の特徴を活かし、地区間連携による周遊性と滞在性の向上を図る。 1. インフラツーリズムやウォーターアクティビティを核とした新たな観光拠点づくりを推進する。 温井・津浪・加計・戸河内地区での拠点機能を向上させるとともに、各地区が連携して一体的な情報発信を行うことで、周遊性や滞在性の向上を図る。 温井地区では（一社）NUKUI OUTDOOR FIELD が「NUKUI OUTDOOR FIELD ツーリストセンター」を設置し、温井ダムの見学ツアーやウォーターアクティビティの受付に加え、地域情報の提供や観光案内により「北の情報発信拠点」としての強化を行う。 津浪地区では、安芸太田町かわまちづくり協議会による同地区を中心とした観光案内マップの作成、「ぷらっとホームつなみ」での温井ダムに関する広報、チラシ配布などにより「東の情報発信拠点」としての強化を行う。 戸河内地区では、安芸太田町が（一社）地域商社あきおおたと連携し、再整備中の道の駅「来夢とごうち」の「西の情報発信拠点」としての強化を行うとともに、各種アクティビティの受付を行う。 加計地区では安芸太田町商工会が既存の観光案内所「太田川交流館かけはし」での情報発信の強化を行い、各地区間を結ぶ場所に位置する拠点性を活かし、他地区への周遊を促す。 2. 拠点・地区間の連携、各種イベントやアクティビティとの連携により町内の周遊性、滞在性の向上を図る。 安芸太田町では（一社）地域商社あきおおたが旅行会社と連携し、温井ダムの見学・観光放流と、農園での収穫体験、三段峡の散策、吉水園の見学などの町内観光を組み合わせた観光ツアー造成の取組を進めている。 今後もサイクリングとウォーターアクティビティ、ダム見学と食体験など、複数の体験を組み合わせた観光プログラムの造成や、ダム見学ツアーとサイクリングイベント等とのタイアップ等を、安芸太田町かわまちづくり協議会の中で効果の検証を行いながら進める。 また、既存の町内路線バスや町が取り組んでいるデマンド型公共交通「もりカー」、地域通貨「morica（もりか）」の活用等により、温井ダムや水辺の資源を活かしたツアーの造成、様々なコンテンツの連携、イベントへの参加促進等を検討し、町内における滞在時間の延長と地域の魅力向上につなげていく。

3. 温井ダム・太田川を水についての学びの場として活用し、水源地域としての誇りを

醸成するとともに、上流域と下流域の交流を図る。

安芸太田町では、「太田川流域振興交流会議」が流域の魅力や川の豊かな恵みを次世代に継承することを目的に、三段峡において「水生生物調査」や「カヌー体験」などの自然体験学習プログラムを子供達に提供している。

また、「RiverDo!川辺コンソーシアム」が太田川の源流域から上～中流域の歴史ある風景を歩き、人と自然の調和に触れることで水について考えるツーリズム「環・太田川フットパス」に取り組んでいる。

今後はこのような取組をさらに発展させ、温井地区や津浪地区の整備箇所、加計地区の「川・森・文化・交流センター」等を活用しながら、各地区を巡ることで太田川流域の水環境や温井ダムの利水・治水機能などを学べる周遊型の学習ツアーや観光プログラムの造成について、安芸太田町かわまちづくり協議会の中で検討していく。また、これにより下流域の学生や団体を誘致し、流域内連携・交流の拡大を図る。

(参考) 位置図

つながる太田川、広がる学び 安芸太田町かわまちづくり

- 1 インフラツーリズムやウォーターアクティビティを核とした新たな観光拠点づくりを推進する。
- 2 拠点・地区間の連携、各種イベントやアクティビティとの連携により町内の周遊性、滞在性の向上を図る。
- 3 温井ダム・太田川を水についての学びの場として活用し、水源地域としての誇りを醸成するとともに、上流域と下流域の交流を図る。



① 津浪地区

加計 SIC に近い「ぷらっとホームつなみ」は安芸太田町観光の「東の玄関口」としての役割を担い、地元の野菜やアユの塩焼きが食べられる場所としても親しまれている。水辺の整備により拠点としての魅力を高めるとともに、加計 SIC のフルインター化も見据え、町の玄関口としての機能を高めるため、安芸太田町かわまちづくり協議会を通じて、団体の垣根を越えた観光案内マップを作成する。また、温井ダムの観光放流、ウォーターアクティビティや棚田、三段峡など安芸太田町の観光スポットのチラシ配布・観光案内等の検討を進め、町内周遊を促す情報発信機能の強化を図る。

また、「水の学びの入り口」と位置付け、太田川での水遊びなどの自然体験を通じて、水への興味・関心を高める利活用を、地域住民や地域団体、事業者が連携して進める。

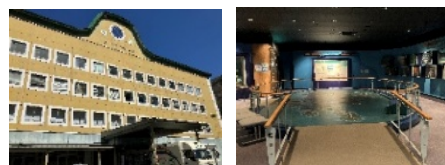


② 加計地区

各地区間を結ぶ場所に位置する拠点性を活かし、既設の観光案内所「太田川交流館かけはし」で、安芸太田町商工会による町内周遊を促す観光案内を行う。

また、「水の学習・交流拠点」と位置付け、加計エリアの文化継承拠点として「水の文化館」や「歴史民族資料館」を有する「川・森・文化・交流センター」を、地域の子供達の学びの場として活用するとともに、下流域（広島市等）から学生や団体を誘致し、太田川流域や水への理解を深める利活用を進める。

さらに、温井ダムのインフラツーリズムツアーの受付場所を「川・森・文化・交流センター」とすることで、ツアーの導入拠点として活用する。



③ 温井地区

安全性や利便性、周辺施設間の周遊性向上のための整備を行うとともに、Lake Ryuki Water Complex による SUP やカヤック、ウェイクサーフィンを中心とした湖面利用や、安芸太田町が取り組む教育旅行、民泊体験型修学旅行の受け入れ、（一社）NUKUI OUTDOOR FIELD による地元や関係団体と連携したツアーコンテンツの造成やガイド育成、情報発信等を進め、更なる体験利用者の増加を目指す。令和 8 年から本格実施を開始した観光放流は、津浪地区、加計地区とも連携し、周辺地域の賑わいづくりに貢献する。

また、「インフラツーリズムの拠点」と位置付け、温井ダム建設時の模型や温井ダムの役割・技術などを伝えるパネルを展示する温井ダム資料室の活用や、ダム建設の歴史や水の恵みを湖上から伝える新たなコンテンツの造成等により、治水・利水機能により下流域の発展を支える温井ダムの役割と壮大さを実感するとともに、山間地域の暮らしや自然、水の大切さを学び、水への考えを深める利活用を進める。



④ 戸河内地区

道の駅「来夢とごうち」の再整備により観光案内所・情報提供施設としての機能を強化し、安芸太田町の「西の玄関口」として、名産品や伝統工芸品の販売、町内周遊を促す情報発信を行う。

また、（一社）地域商社あきおおたが、安芸太田町の自然体験への入り口として、三段峡でのウォーターアクティビティや森林セラピー等の案内、「あきおおた里山レンタサイクル」や各種コンテンツの受付、山歩きや水遊び・雪遊び道具のレンタル等を行う。



<様式4>

ハード施策の個別整備計画書

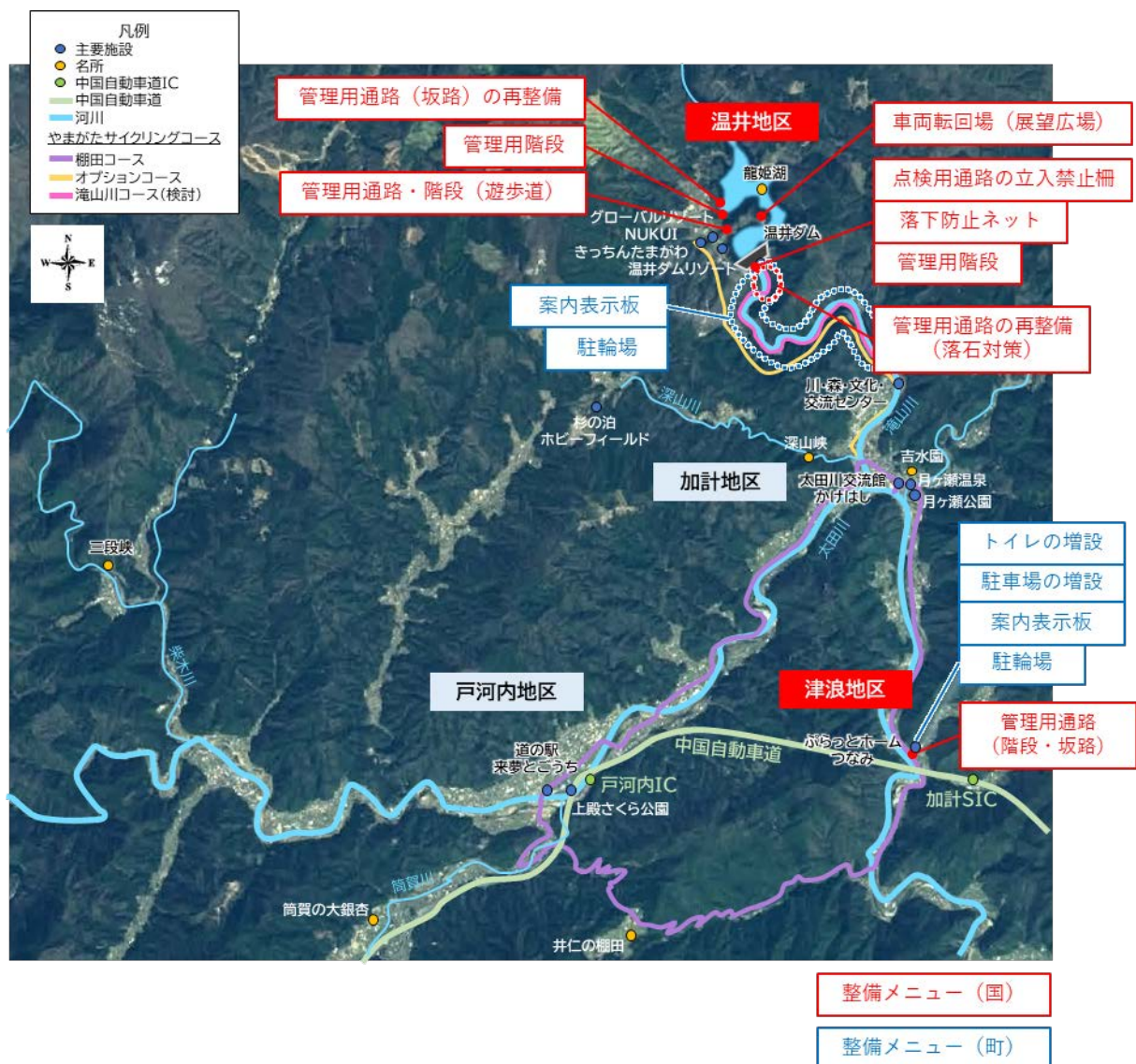
1. 河川名

- ① 太田川水系滝山川
- ② 太田川水系太田川

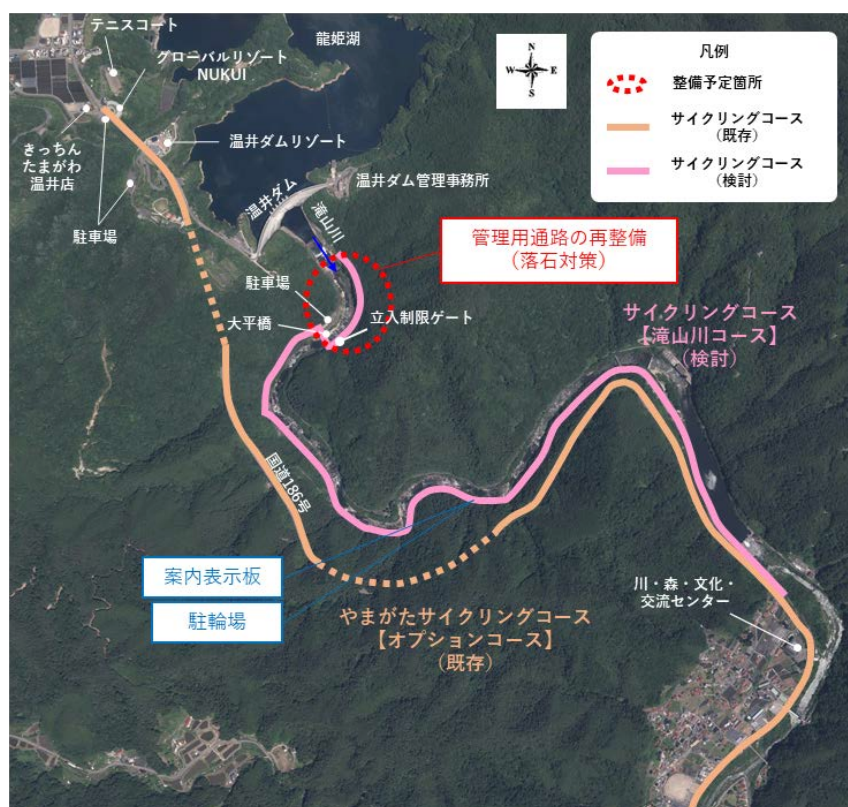
2. 整備範囲

- ① 滝山川 温井地区
- ② 太田川 津浪地区

(全体位置図)



① 滝山川 温井地区



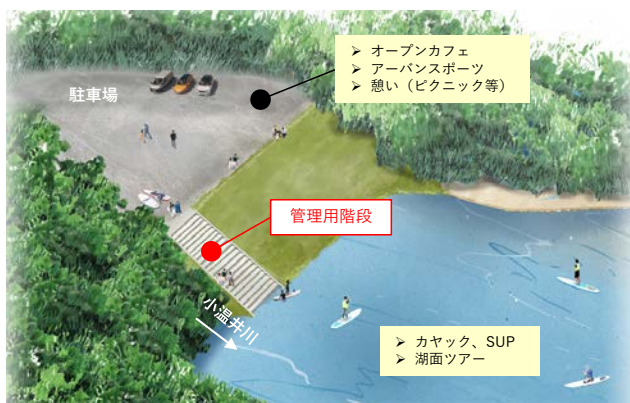
② 太田川 津浪地区



3. 整備内容

① 滝山川 温井地区：温井地区水辺整備（国）および周辺環境整備（安芸太田町） （龍姫湖周辺・湖面エリア）

- ・温井ダムのダム湖である龍姫湖を活用した、親水性および SUP やカヤック等水上アクティビティの利便性に配慮したうるおいある水辺空間として整備する。具体的には、水上アクティビティの利用者がアクセスしやすい管理用通路（坂路）と管理用階段を整備する。



<整備予定箇所 1 管理用階段>



<整備予定箇所 2 管理用通路（坂路）>

(龍姫湖周辺・半島エリア)

- ・ダム湖の半島内での回遊性を高めるために、管理用通路・階段の整備を行う。
- ・また、半島先端部の平場を展望広場として活用するための基盤整正を行う。
- ・なお、近隣のレクリエーション公共施設（ぬくい夢の丘公園等）と一体的な利活用も念頭に検討する。



＜管理用通路・階段（遊歩道）＞



＜車両転回場（展望広場）＞



＜ぬくい夢の丘公園＞

凡例

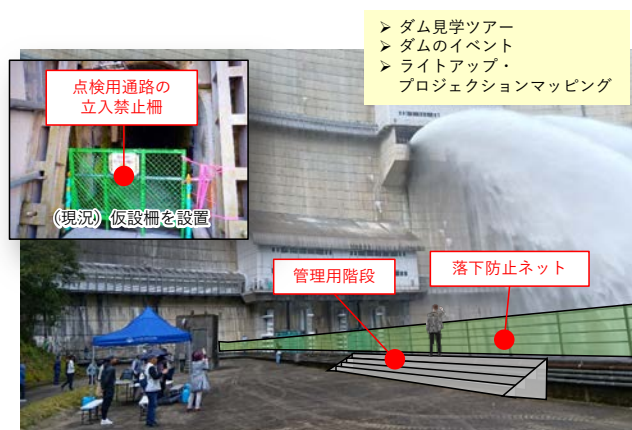
整備メニュー（国）

整備メニュー（町）

利活用メニュー

(ダム堤体エリア)

- ・ダム右岸広場をダム見学広場として活用するために、利便性に配慮した整備と安全対策を施す。具体的にはダム放流を見学しやすいように階段を整備するとともに、落下防止ネットを設置する。
- ・また、管理施設への侵入防止および安全対策として、点検用通路の立入禁止柵を設置する。



凡例

整備メニュー（国）

整備メニュー（町）

利活用メニュー

(滝山川エリア)

- ・温井ダム堤体下流左岸の管理用通路の落石対策を行い、サイクリングによる利活用を推進する。
- ・また、待避所等に案内表示板および駐輪場を整備する。
- ・なお、今後の利用状況に応じ、滝山川に設置されている河川昇降路の再整備を検討する。



<案内表示板>



<駐輪場>



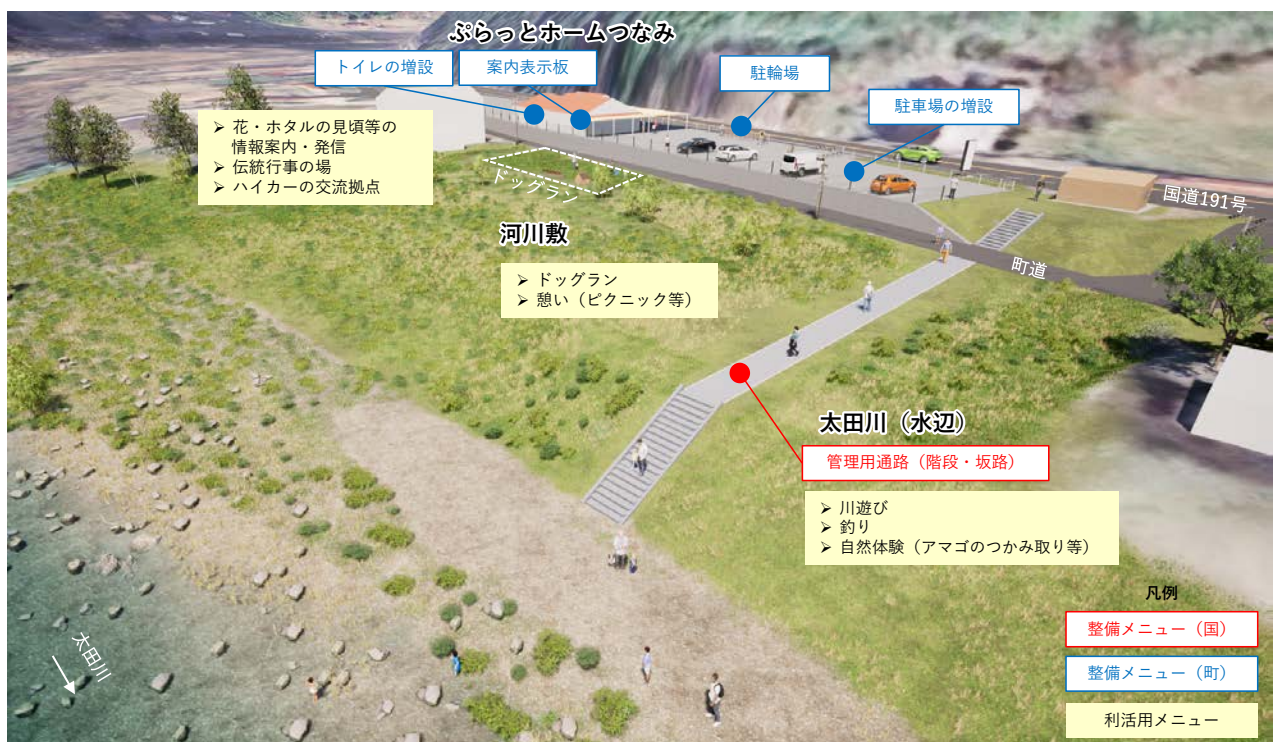
<ダム堤体下流左岸管理用通路>
(現況)



<河川昇降路(現況)>

②太田川 津浪地区：津浪地区水辺整備（国）および周辺環境整備（安芸太田町）

- ・「ぶらっとホームつなみ」を拠点とした、親水性に配慮したうるおいある水辺空間として整備する。具体的には、「ぶらっとホームつなみ」より直接河岸にアクセス可能な管理用通路（階段・坂路）を整備する。
- ・また、「ぶらっとホームつなみ」に駐車場、駐輪場、トイレを増設するとともに、案内表示板を設置する。



(整備の必要性(治水・管理上、利活用上))

整備箇所	整備メニュー	治水・維持管理上の必要性	利活用上の必要性	利活用メニュー
温井地区 (龍姫湖周辺・湖面エリア)	・アクティビティの利便性向上 ⇒ <u>管理用通路(坂路)の再整備</u>	・貯水位が高い状態でも安全に巡視船が進水することができる。	・湖面へアプローチしやすくするための坂路を整備する。	・遊覧船 ・ウェイクサーフィン
	・アクティビティの利便性向上 ⇒ <u>管理用階段</u>	・現状は小温井川(砂防河川)に降りることが困難な場所において、安全に維持管理を行うことができる。	・駐車場からつながる湖岸を活用するための階段を整備する。	・カヤック、SUP等 ・憩い(ピクニック等)
温井地区 (龍姫湖周辺・半島エリア)	・半島エリアの回遊性向上 ⇒ <u>管理用通路・階段</u>	・現状は連続していない半島エリアの巡回路がつながることで、日常的な巡視(徒歩)の時間を短縮することができる。	・半島エリアの回遊性を高めるための管理用通路・階段を整備する。	・半島内のアクセス道 ・散策 ・自然体験
	・平場の安全な多目的利用 ⇒ <u>車両転回場</u>	・網場の補修やCCTVの点検に必要な作業スペースを確保することができる。 ・車両転回場として整備することで草木の繁茂を防ぎ、長期的な維持管理コストの低減を図る。	・展望広場として活用するため、平場を基盤整正する。	・天体観測 ・ヨガ・フィットネス ・湖畔カフェ ・グランピング
温井地区 (ダム堤体エリア)	・ダム見学の利用環境向上、安全対策 ⇒ <u>管理用階段・落下防止ネット</u>	・安全に減勢池の点検を行うことができる。 ・見学者の転落等の事故防止を図る。	・ダム見学者の利用環境向上のため、階段を設置する。 ・ダム見学者の安全性確保のため、落下防止ネットを設置する。	・ダム見学ツアー ・ダムイベント ・ライトアップ、プロジェクションマッピング
	・管理施設への侵入防止、安全対策 ⇒ <u>点検用通路の立入禁止柵</u>	・部外者の侵入防止、見学者の転落等の事故防止を図る。	・ダム見学者の安全性確保のため、立入禁止柵を設置する。	
温井地区 (滝山川エリア)	・ダムへのアクセス道としての利用 ⇒ <u>管理用通路の再整備(落石対策)</u>	・現状は巡視が困難な場所において、日常的な巡視ルートを確保できる。	・サイクリングコース新設のため、管理用通路の再整備(落石対策)を行う。	・サイクリング ・散策
津浪地区	・水辺に安全に近づける環境 ⇒ <u>管理用通路(階段・坂路)</u>	・現状は樹木が繁茂し河川に降りて巡視が困難な場所において巡視を可能にすることができる。	・施設から直接太田川へのアクセスが可能となる管理用通路を整備する。	・水遊び、自然体験等

(利活用・整備メニュー)

	場所	利活用メニュー	整備メニュー	整備役割	
				国	町
温井地区	龍姫湖周辺	■湖面エリア ・遊覧船 ・ウェイクサーフィン	管理用通路(坂路)	●	
		■湖面エリア ・カヤック、SUP ・湖面ツアー ・オープンカフェ ・憩い(ピクニック等) ・アーバンスポーツ	管理用階段	●	
		■半島エリア ・天体観測 ・ヨガ・フィットネス運動 ・湖畔カフェ ・グランピング	車両転回場(展望広場)	●	
		■半島エリア ・周辺施設⇄湖面へのアクセス ・散策 ・川遊び ・自然体験	管理用通路・階段(遊歩道)	●	
	ダム堤体	・ダム見学ツアー ・ダムイベント ・ライトアップ、プロジェクションマッピング	落下防止ネット・管理用階段	●	
			点検用通路の立入禁止柵	●	
	滝山川	・サイクリング ・散策	管理用通路の落石対策(サイクリングコース)	●	
			案内表示板		●
			駐輪場		●
津浪地区	ぶらっとホーム つなみ周辺	■ぶらっとホームつなみ ・花・ホテルの見頃等の情報案内・発信 ・伝統行事の場 ・ハイカーの交流拠点 ■河川敷 ・ドッグラン ・憩い(ピクニック等) ■太田川(水辺) ・川遊び ・釣り ・自然体験(アマゴのつかみ取り等)	管理用通路(階段・坂路)	●	
			駐車場・駐輪場		●
			案内表示板		●
			トイレ		●

4. 整備の実現方策

・関連事業の整備計画

太田川流域の津浪地区については、河川整備計画にて河床掘削・護岸が計画されており、当該事業との一体的な整備により、親水性を活かした魅力的な水辺等環境空間の創出を図ることができる。

・整備工程

メニュー	整備	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17
							モニタリング				
<温井地区> 管理用通路 管理用階段 車両転回場	国	かわまちづくり計画の登録・事業再評価	設計		工事						
<津浪地区> 管理用通路	国				設計・工事						
<滝山川沿い> 管理用階段 落下防止ネット 立入禁止柵 管理用通路	国			※関連事業として実施							
<滝山川沿い> サイクリング 環境等	町										
<津浪地区> トイレ等	町										

以下、関連施設整備

加計ICフル化	町	※令和5年度事業化（アクセス道路 令和7年度事業着手）									
道の駅再整備 来夢とごうち	町	※令和10年3月開業予定									

※整備工程については申請時点の予定であり、今後、関係機関との協議や予算状況等により変更となる場合がある。

5. 多自然川づくりに関する事項

護岸整備については、温井地区・津浪地区の水理特性、背後地の地形・地質、土地利用などを十分踏まえた上で、必要最小限の設置区間とし、生物の生息・生育・繁殖環境と多様な河川景観の保全・創出を図る適切な工法とする。

6. その他特筆すべき事項

○かわまちづくりの効果

- ・安芸太田町には、清流太田川の自然環境を体感できる観光資源が豊富に存在しているが、これまでは各拠点で連携した情報発信や事業展開などが十分に図られてきたとはいえ、滞在時間を延ばす仕掛けが少ないことが課題に挙げられる。
- ・そこで、温井地区と津浪地区の整備による新たな観光拠点づくり（ハード）と、温井地区、加計地区、津浪地区、戸河内地区の連携による情報発信や町内のアクティビティ・イベントの連携、学習ツアーや観光プログラム等の造成（ソフト）により、流域内の周遊性・滞在性の向上を図る。

○流域内連携等について

- ・令和3年に広島市で発足した「River Do!基町川辺コンソーシアム」は、基町環境護岸の一部を占用・維持管理する都市・地域再生等占用主体であり、「川と川辺」を舞台に環境、平和、教育など様々な切り口から活動を続けている。広島市内の住民にとっても非常に関わりの深い太田川の歴史や魅力を広範囲なフィールドで体感するため、太田川の源流域や上流域の自然環境を俯瞰しながら歩き、連続する水系による下流域生活圏との共生への理解を深めるツアーを津浪～温井ダム、三段峡などで実施しており、整備後も引き続き下流域の市民が上流域について学ぶツアーなどを実施していく。

- ・「太田川流域振興交流会議」は、平成 10 年 4 月に、太田川流域の市町村が連携し、流域内での振興や交流活動、水質保全活動、自然環境保全活動、普及啓発活動に関する事業の展開や情報交換を行うことにより、太田川流域の振興と交流の推進を図ることを目的に設立された。自然体験事業として安芸太田町では、川遊びの安全講習や太田川の河川環境と歴史を学ぶプログラム等をこれまでも実施しており、整備後も引き続き太田川流域の小学校や子供会、環境保全活動団体等と連携したプログラムを実施していく。
- ・安芸太田町では役場、商工会、教育委員会、（一社）地域商社あきおおた等で構成する「安芸太田町田舎体験推進協議会」により、教育旅行や修学旅行の受け入れが行われている。子供達が民泊により田舎暮らしを体験することで、人と人との歩み寄り協力しながら生きることの大切さや、豊かな自然を間近で感じ学んでもらう「人情田舎体験」をはじめ、温井ダムの龍姫湖でのカヌーや SUP 体験、三段峡での自然体験等のプログラムがあり、これまでに町内や全国各地から 168 校、海外から 29 団体（平成 25 年度～令和 6 年度累計）を受け入れている。整備後も引き続き教育旅行・修学旅行の受け入れを行い、地域内外の交流を促進する。
- ・三段峡（安芸太田町）～可部（広島市）の間はかつて JR が通っていたが、平成 15 年 11 月末に廃線となっており、廃線跡は、津浪や加計のような地域の拠点施設の他、カフェ、公園、広場等として活用されている。太田川沿いの観光とあわせて廃線跡をめぐる事は、各地の歴史を学ぶことにも繋がっている。

維持管理計画書

1. 継続的な有効利用に関する計画

- ・津浪地区では、「ぷらっとホームつなみ」での地域行事や太田川を活用したイベントが開催されるとともに、周辺観光（希少植物の鑑賞、丸山登山、棚田見学等）の駐車場としても利用されており、水辺整備による親水性の向上により、更なるにぎわい創出を図る。
- ・温井地区では、龍姫湖を活用したウォーターアクティビティやダム見学ツアー、観光放流、イベント等が行われており、整備による利用環境向上により、更なるにぎわい創出を図る。また、温井ダム堤体直下に直接アクセスできる新たなサイクリング環境を整備し、サイクリング利用者の増加を図る。
- ・令和8年から始まった温井ダムの観光放流について、加計地区の吉水園の一般公開時や安芸太田町内のイベント時に「イベント放流」として実施する。さらに、とうもろこし収穫体験と三段峡散策に放流見学をセットにした旅行商品の販売や、グローバルリゾート NUKUI による観光放流にあわせたホタル観賞を付加した宿泊プランの提供など、観光放流と連携した取組を進める。
- ・今後は、各地区で実施されているイベントやアクティビティの連携について、安芸太田町かわまちづくり協議会の中で効果の検証を行いながら進め、観光資源の魅力向上や滞在性の向上を図る。

↔ :連携

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
温井地区	イベント				花見		ホタル観賞				龍姫湖まつり		
	ウォーターアクティビティ				(教育旅行の受け入れ:随時)			LakeTime-Summer Party (ウォーターアクティビティイベント)					
	ダム見学				(ダム見学ツアー:随時)								
	観光放流				(定期放流:金曜日、イベント放流:イベント時)								
津浪地区	イベント				ホソバナコバイモ、カタクリの観察				アマゴのつかみ取り				
	ぷらっとホームつなみ				春祭り								
	棚田見学												
	丸山登山												
加計地区	イベント							納涼加計まつり					五サー市
	吉水園												
戸河内地区	イベント			花見 (上殿さくら公園)		一般公開 (初夏)				安芸太田町 ウォーキング大会 in 新入山		一般公開 (秋)	
	三段峡					中国地方選抜 神楽競演大会		ふれあい戸河内まつり				安芸太田町とごうち 「胡子講まつり」	戸河内連合神楽
サイクリング							「川であそぼう」 (三段峡)		「川であそぼう」 (三段峡)			三段峡 秋祭り	
観光ツアー							石見神楽鑑賞(島根)と 温井ダム見学		FunRideひろしま inやまがたサイクルランド (北広島町と合同開催)				

2. 維持管理計画

○温井地区

- ・令和7年3月に龍姫湖の湖面一帯は河川敷地占用許可準則に基づく「都市地域再生等利用区域」の指定を受けており、安芸太田町占用のもと、事業者（（一社）NUKUI OUTDOOR FIELD）がウェイクサーフィンやカヌー・SUP等のアクティビティを中心とした事業を実施し、占用施設の管理及び清掃などの維持管理も行っている。
- ・整備後も引き続き、日常的な管理については地域住民・事業者により運営・維持管理を行い、各施設の補修等については施設管理者が行う。
- ・整備箇所の維持管理や利活用に関する具体的なルールは、龍姫湖利用協議会及びかわまちづくり協議会において定める。

○津浪地区

- 「ぷらっとホームつなみ」は津浪振興会が所有する施設であり、観光客や地域住民の交流拠点として日常的に利用されている。地域行事のほか、津浪振興会によるドッグランの無料開放や自然体験（アマゴのつかみ取り等）が行われている。
- ・整備後も引き続き、日常的な管理については地域住民・事業者により運営・維持管理を行い、各施設の補修等については施設管理者が行う。
 - ・整備箇所の維持管理や利活用に関する具体的なルールは、津浪振興会及びかわまちづくり協議会において定める。

場所	整備メニュー	国	町	地域住民・事業者
温井地区	龍姫湖周辺	管理用通路（坂路）	整備・補修	日常管理
		管理用階段	整備・補修	日常管理
		車両転回場（展望広場）	整備・補修	日常管理
		管理用通路・階段（遊歩道）	整備・補修	日常管理
	ダム堤体	落下防止ネット・管理用階段	整備・補修	日常管理
		点検用通路の立入禁止柵	整備・補修・日常管理	
	滝山川	管理用通路の落石対策（サイクリングコース）	整備・補修	日常管理
		案内表示板	整備・補修	日常管理
		駐輪場	整備・補修	日常管理
津浪地区	ぷらっとホームつなみ	管理用通路（階段・坂路）	整備・補修	日常管理
		駐車場・駐輪場	整備・補修	日常管理
		案内表示板	整備・補修	日常管理
		トイレ	整備・補修	日常管理